

RESULTS JAPAN ANNUAL REPORT



03

M a r c h

令和2年度

事業報告書

2020年03月01日

鶴岡前駐英大使のインタビュー記事（朝日新聞）

2月28日付の朝日新聞朝刊、15面に鶴岡公二前駐英大使のインタビュー記事が載っていました。

鶴岡前大使は、外務審議官時代に、栄養を首脳会議等のトピックにすべく、お力添えをくださったリザルツ&栄養の大応援団です。

記事によると、イギリスは国連で1970年に提唱された国際開発に関する投資をGDPの0.7%にするという目標を守っているそうです。日本はピーク時には1兆円を超えましたが、今は1%にも満たず5,000億円程度だということです。



特に興味深かったのがジョンソン首相とのやり取りに関する文章です。

日本のメディアではトランプ大統領同様「よくわからない人」という印象の強いジョンソン首相ですが、鶴岡前大使とのやり取りを記事で読み、非常にクレバーな印象を受けました。

英国は2013年のオリンピックに合わせて、N4Gサミットを開催し、そこで、多額の拠出を宣言する等、栄養改善について力強いリーダーシップを発揮した経験があります。英国の経験をもとに、日本でより実りのあるサミットが開催できるよう、2国間の連携を強めていけるといいですね。

2020年03月03日

もうすぐ春ですね

先日の梅の写真に引き続き、今度は河津桜がきれいに咲いたというお知らせをいただいた代表の白須。

職員にもきれいな写真を共有してくれました。

もうすっかり春ですね。

ケニアには四季がなく、ずっと 20 度くらいです。快適といえば快適ですが、日本の季節の移り変わりが恋しくなりました。



手書きのメッセージを添えて (Gavi アライアンスに関するアドボカシー活動)

6 月 3～4 日の Gavi 増資会合(ロンドン)まで時間ありません！

この会合では、各国が次の 5 年間の Gavi への拠出額を表明します。

G7 諸国並みの拠出を！投資を日本に還元し、Win-win の関係を！

日本リザルツはこのようなことを申し上げております。

今日は、国会議員の先生方にもお力添えをお願いするために、手書きのメッセージを添えた資料を、議員会館で先生方に配りました。



武見議員記事(朝日新聞)

2 月 29 日(土)の朝日新聞に武見議員の新型コロナウイルスに対するインタビュー記事が掲載されたので紹介いたします。

インタビューの最後に日本政府の対応全般についての評価が記載されていますが、「米国の CDC のように感染症の情報収集や対策立案を十分担える組織を日本で設立すべきである」とのご意見はもっともであると思います。



2020 年 03 月 04 日

第九回国際母子栄養改善議員連盟

本日、衆議院第二議員会館において第九回国際母子栄養改善議員連盟が開催されました。新型コロナウイルスの感染拡大が騒がれている昨今、今回の議員連盟は開催自体するか、議員連盟や省庁関係者以外の一般来場者を募集するかということが決定されたのが、開催まで1週間を切ってからでした。

それにもかかわらず、開催の周知を行ったところ非常に早いペースでお申込みをいただき、栄養サミットへ向けた関心の高まりや意気込みを実感しました。

感染防止のために手洗い、アルコール消毒やマスク着用をお願いし、極力短時間の開催に努めた今回の議員連盟でしたが、会場の定員ギリギリという大盛況ぶりで、議員連盟や省庁の方々はもちろんのこと、UNICEF、世界食糧計画(WFP)、食糧農業機関(FAO)といった国際機関や、日本栄養士会、学术界、民間企業や市民社会といった幅広い関係者が集まりました。それらの幅広い出席者からは、皆で協力して栄養改善に関する日本の経験を世界に発信し、より健康で幸せな世界を実現してゆこうという雰囲気が感じられました。栄養サミットの成功や、その後の世界の栄養改善に向け、もっと盛り上げていきます。







2020 年 03 月 05 日

春！！！！

代表の白須が親戚の方からいただいた井の頭公園の「春」の写真です。



久しぶりの日本リザルツ

皆様お久しぶりです。白石です。

私が初めて日本リザルツのオフィスを訪れたのは、もうかれこれ4年以上前のことです。2015 年の 12 月だったと記憶しています。当時学部 1 年、18 歳でした。久しぶりにオフィスに来るたび、そんな記憶が思い出されます。

当時のわたしは学部 1 年の夏に訪れたケニアでのボランティア経験から「世界一周をしながらボランティアをしたい！」「世界のことを知りたい！」とぼんやりと考え、国内の国際 NGO をまわり、協力を仰いでいました。そのときに快く受け入れ「うちで働いてみれば？」といってくれたのが日本リザルツの白須代表でした。

それからというもの、まる 3 年間お世話になりっぱなしでした。途中 1 年間は現地ケニアでのスナノミ症や結核の事業を担当させていただき、無我夢中で動き、一心不乱に考えま

した。その甲斐あって「さまざまな心の動きを経験して、知識を広く深くしていき、意思を強く持ちつつ、多くの人と関わり合うこと」の重要性について身をもって理解しました。いまでもスナノミ症にかかった子どもたちのことや、スラム街での結核事業で一緒になって汗を流したケニア人スタッフのことを思い出します。これらの経験がいまでも生きています。

2018年の6月に日本リザルツを離れてからは、学業に専念し卒業論文「ケニアを中心とした東アフリカの地域経済統合と貿易政策」を執筆していました。同時に国際協力機構(JICA)の民間連携事業部でもお世話になりました。そして昨年末には卒業論文を提出し、先月末にはJICAでの業務を終えました。

4月からは新社会人になるわけですが、3月中は比較的時間があります。そのため3月いっぱいには日本リザルツでお手伝いをさせていただいております。短い時間になってしましますが少しでもこれまでの恩返しができれば嬉しいです。更に、もがきながらも世界中の笑顔を願うような「学生」が増えることを目指し、なにか新しいことが提案できればと考えています。

2020年03月09日

齊藤様からのお手紙

スナノミ症について世界に認識してもらい、対策を推進してもらうための「雅子プロジェクト」の立ち上げについて先日のブログ記事でご紹介したところですが、その際訪問させていただいた北海道岩内町の齊藤様ご一家からお手紙が届きました。

「雅子プロジェクト」立ち上げに対する感謝のお言葉と、雅子様の遺志を継いで、スナノミ症根絶へ向けてご家族でご協力をしていただける旨が書かれていました。

スナノミ症を無くしたいという人々の思いをしっかりと受け止め、大きな力として発信していきたいと思います。

靴の搬入と梱包

スナノミ症対策の靴で、別の倉庫に保管していただいていたものを2月29日に日本リザルツの会議室に搬入しました。

トラックが到着。別の倉庫で保管していただいていた靴のはっきりとした量を伺っていなかったなので、大きなトラックが来て少々面食らっているところです。



実際にはそれほど満載ではなかったので、何とか会議室に収まりそうだと一安心しながら積み荷を降ろします。



ひとまず会議室に運び込んだところ、テーブルが占拠されてしまいました。

一旦全部を同じサイズの白い段ボール箱に移し替えて積み上げました。



なお、この靴は以前のブログ記事でご紹介させていただいた株式会社ウエルアクセスの服部社長のご厚意で保管していただいていたものですが、服部社長がご逝去され、お父様である前社長が引き継いで倉庫との調整や搬送業者の手配を行ってくださいました。お忙しい中ご協力をいただき、誠にありがとうございます。



服部社長が来所された時の写真を改めて掲載します。

そして先週の金曜日、3月6日に梱包作業を行いました。



見づらいですが、右奥に積まれた、「64」と番号が書かれた箱まで梱包が済んでいます。

手前に見えている箱は一旦移し替えただけの段ボールで、これから梱包をする必要があります。



梱包作業は全体の 2 割から 2 割 5 分完了といったところだと思えます。



搬入や梱包にご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。
引き続き、よろしくお願いいたします。



2020 年 03 月 10 日

新・お掃除隊長

日本リザルツケニア事務所では、拠点となるカンゲミヘルスセンターの清掃活動を実施しています。

最近、お掃除隊長のサミさんを見かけず、寂しく掃除をしていた筆者。
今日ヘルスセンターに行くと、あら！？

見慣れない青年がお掃除を始めていました。



新・お掃除隊長のモファットさんです。

最初は掃除するそばから、スタッフや利用者がポイ捨てをしていましたが、今ではヘルスセンターの皆さんが毎日掃除をするようになりました。

新・お掃除隊長のモファットさんや皆さんとともにピカピカのヘルスセンターを目指していきたいです。



NGO サンキューセミナー

大曲博士は世界的に流行している新型コロナウイルスに関しても講演やTV出演等で専門家としてコメント等されており、今回のセミナーは博士から直接お話を聞くことができる貴重な機会と言えます。



・電子メールアドレス

- ・お名前、ふりがな
- ・勤務先、役職名(あれば)
- ・電話番号(任意)

申込み期限:3月24日(火) 午後5時 ※定員(50名)に達し次第締め切らせていただきます。

なお、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、ご参加いただく方には次のことをお願いいたします。

- ・手洗いの励行にご配慮ください
- ・受付にて、アルコール消毒液で手指消毒を行ってください
- ・なるべくマスクをご用意ください
- ・基礎疾患のある方、発熱等風邪様の症状がみられる場合はご参加を控えてください

2020年03月12日

新聞記事 山本太郎教授

昨日の朝日新聞に長崎大学熱帯医学研究所の山本太郎教授の感染症についてのインタビュー記事がありましたので紹介します。

日本リザルツでは山本教授には大変お世話になっており、いままでに2016年6月25日に勉強会講演「微生物と非感染疫病」、2019年7月5日にサンキューセミナー「国際保健・理論と実務 ～抗生物質と人間、世界の保健政策～」2019年10月18日にサンキューセミナー「エボラ出血熱とアフリカのUHC」で計3回講演をお願いしました。



どの講演も大好評で、私たちも大変勉強になり、素晴らしい先生方の講演を拝聴でき嬉しく思っています。

フォローアップ作業

(国際母子栄養改善議員連盟)

今年 12 月に東京栄養サミット 2020 が開催される予定ですが、それに先立ち、先週 3 月 4 日に国際母子栄養改善議員連盟の会合が開催されました。当日は、国会議員、関係省庁、国際機関、企業、非政府組織 NGO が参加し、会場となった衆議院議員会館の会議室は満席になりました。皆様の栄養問題及び栄養サミットへの関心の高さが伺えるものでした。

今、そのフォローアップ作業として、同会合の議事録を作成しています。

私は、議事録の要約（はじめに）を担当しました。

そろそろ印刷に回っている頃です！

2020 年 03 月 15 日

ケニアでもコロナウイルス感染者が確認

ケニアでも遂に新型コロナウイルスの発症事例が確認されました。

保健省によると、3 月 13 日、ケニアで新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の 1 例目が確認されたということで、保健長官より発表されました。患者は、3 月 5 日に米国からロンドン経由で帰国した 27 才ケニア人女性であり、容態は安定していると報道されています。ただ、同患者の 3 月 5 日～12 日までの行動情報はまだ明らかになっていません。

新聞には「パニックになるな！」と書いていますが、近所のスーパーに買い出しに行くと、案の定、大量のトイレットペーパーや手の消毒薬を買い占める人でパニック状態になっていました。

また、使い捨てマスクの値段は 1 枚 90KES もします(日本円で 100 円)。一般の家庭では大量購入できるような価格ではないため、現地の人は 1 つのマスクを何日も使いまわしていますが、あまり衛生的とはいえません。



ケニアではきれいな水へアクセスできる人はわずかです。うがいの習慣也没有。保健省も、とにかく手洗い、うがいの徹底と、換気、そして消毒を皆さんに呼び掛けています。

こうしたときだからこそ、きちんとした情報を把握し、冷静に行動したいと改めて感じました。



2020 年 03 月 16 日

小野崎郁史氏、医療功労賞に決定

第 48 回医療功労賞（読売新聞社主催、厚生労働省、日本テレビ放送後援、損保ジャパン日本興亜協賛）の中央表彰者 10 名が決定したというニュースが読売新聞に掲載され、その中に小野寺郁史氏のお名前がありました。

小野寺氏は結核予防会で結核根絶にあたられ、現在は世界保健機関(WHO)に勤務されています。

日本リザルツが結核根絶へ向けた活動を行う中で、小野寺氏にはご助言等をいただけてきました。



2020 年 03 月 18 日

議事録をお届けしました！（第九回国際母子栄養改善議員連盟）

第九回国際母子栄養改善議員連盟(2020 年 3 月 4 日開催)の議事録が完成しました。

印刷業者の方から届いた議事録を、国会議員の先生方、70 名程度と関係省庁(財務省、経済産業省、厚生労働省、農林水産省、外務省)にお届けしました。また、参加者の皆様にも郵送をいたしました。当日の雰囲気が伝わると嬉しいです。



2020 年 03 月 19 日

春の集い

3 月 18 日(水) 午前中、白須代表あてに、ビル&メリンダ・ゲイツ財団 日本代表の柏倉様、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの堀江様、大沼様が来所され、栄養問題について意見を交換されました。

写真を掲載できないのが残念ですが、お茶を楽しみながらも、1 時間程で論理的な会議がなされたのは流石です。

ランチミーティングを開催しました。

昨日、日本リザルツでは事務所のメンバーが集まりランチミーティングを開催しました。代表の白須の携帯電話にはミーティング中にも連絡が入ります。白須曰く「私は 3 つ 4 つの事を同時にできるけど、食べながらは得意ではない」との事です。



2020 年 03 月 22 日

ヘルスセンターでもコロナの影響が

ケニアでも既に 7 人の陽性患者が確認されているコロナウイルス。

先週から、ケニアでも大統領がリモートワークを推奨する等の措置が始まりました。学校も休校になりました。

普段活動しているカンゲミのヘルスセンターにも変化が。

各施設に手洗い場、もしくは手の消毒薬の設置が要請されたことを受け、入り口には手洗い場が設けられました。

また、家族計画、母子保健に関するサービス等は休止されていました。院内感染を防ぐこととコロナ対策に特化することが要因ということです。

保健省からの指示では、医療施設へ不要に立ち入ることを禁止していますが、ケニア国内でのウイルス確認に伴い、パニックになったカンゲミの住民の皆さんでヘルスセンターの入り口は溢れかえっていました。

カンゲミやスラム居住区でコロナウイルスが確認されれば、瞬く間にまん延してしまう可能性があります。その上、住民の皆さんは適切に医療サービスを受けられるお金もありません。

すでに、蚊がコロナを媒介するとか、アルコールを飲めばコロナが防げる等誤った情報も流れており、保健省の皆さんも正しい情報を全ての皆さんに伝えられるように、尽力されています。

私たちが冷静に行動する必要があると実感しました。



2020 年 03 月 24 日

WHO 事務局長補 山本尚子氏

本日の朝日新聞にWHO事務局長補の山本尚子氏への新型コロナウイルスの感染についての電話インタビュー記事が掲載されましたので紹介します。

山本氏は厚生労働省の総括審議官から 2017 年に WHO 入りし、現在は日本人最高位の事務局長補として、各国の保健医療体制の強化や衛生管理の向上等世界の人々の健康づくり全般を担当されています。



2020 年 03 月 25 日

多才な理事から連絡が

今朝、日本リザルツの理事会の方からメールが届いておりました。
新聞記事にも取り上げられている多才な方です。

代表の白須によりますと、リザルツでもトップクラスの働き方をし、その後、♪音楽等の世界でもご活躍されている♪と。
音楽の世界で生計を立てる事ができる人は、数少ないですね。

夢が現実となった方が身近に感じられ、何百冊もの本を読むのと同じように、このような成功疑似体験により、私共も目的を達成できると信じ邁進してゆきたいと存じます。

2020 年 03 月 26 日

「日本、リーダーシップを」WHO 事務局長補

世界保健機関(WHO)事務局長補の山本尚子氏へのインタビュー記事が2020年3月24日の朝日新聞に掲載されました。

3月24日に別メンバーが同じ記事について投稿したのですが、私も投稿したくなりました。

記事を読んで「低所得国、紛争国等医療が脆弱な国での感染の広がりが大きな問題になる」

という言葉から、この記事の主題からは若干ズレるかもしれませんが、私が以前に暮らしておりました低所得国の様子を思い浮かべずにはいられませんでした。

そのような国の中でも色々な環境がありますよね。隣の家まで距離があるような農村部地域の方がむしろ安全なのではとも思いますが、仮にそのような地方で患者さんが出てしまった場合、その患者さんはどうになってしまうのか。最低限の医療サービスを受けることができるのか。少し大きな街まで治療に出かけることができるのか、どうやって大きな街まで出るのか？トラックの荷台？屋根のついた乗り合いタクシー？二次感染？一方、都市部には人口密度の高い居住区も存在します。そもそも、首都であったとしても適切な診断ができるのか？

非常に難しい問題ですが、日本の技術や支援がこのような地域にも届くことを祈っております。



2020年03月28日

【速報】安倍総理が会見で「Gavi を通じてコロナ対策のワクチンを開発」と言及

28日夜、安倍内閣総理大臣が会見を開き、ワクチン開発について、「CEPI、Gavi を通じて」と明言されました。日本がコロナ対策において、診断機器、治療薬、ワクチン開発で世界をリードしていくと良いですね。



ワクチンに関する発言内容を下記に要約いたします。

—終息の見通し、その目標について。(記者)

—このコロナとの戦いが終わるのか、終息するのか、現時点で答えられる世界の首脳は1

人もいないだろうと。私もそうです、答えることは残念ながらできません。と同時に、オリンピックを開催するためには、日本だけがそういう状況になっていればいいということではなくて、世界がそういう状況になっていかなければならないわけであります。そこで先般のG7 やG20 でも強く主張したところではありますが、まずは治療薬とワクチンの開発に全力を挙げるべきだと先ほど申し上げました。治療薬については日本は相当、今、進んでいると思います。と同時に、またワクチンについてもですね、CEPI や Gavi を通じて、国際社会とともに、ワクチンの開発を急いでいます。そういうものが出てくることによってですね、ある程度、終息に向かってめどを出していきたいと思っているところであります。(安倍内閣総理大臣)

2020 年 03 月 29 日

ケニアで夜間外出禁止令はじまる

新型コロナウイルス拡大を受けて、ケニアでは、先週金曜日(27 日)から夜間外出禁止令が始まりました。

以下、在ケニア大使館からの領事メール：

3 月 25 日に発表された新型コロナウイルスにかかる夜間外出禁止令が、本 27 日からケニア全域対象に発動されます。

- ・午後 7 時から翌午前 5 時までの間は、絶対に外出をしないで下さい。
- ・治安当局は、同外出禁止令発動にともない、ケニア全域において 7 万人規模の体制で取り締まりを強化する方針で、違反した場合には、身柄の拘束や罰金を科されることがあります(参照：「Public Order Act」)。

早速金曜日の夜から外出禁止令が始まりました。普段はボレボレ(ゆっくりゆっくり)なケニアの皆さんですが、なんと午後 6 時には街は静かになっていました。

一方、モンバサでは、帰宅を急ぐ住民に警察が催涙弾を投げる等の騒動も。治安悪化も心配されています。

一方、ケニヤッタ大統領は経済措置として以下の対策を講じることを発表しました。

- ・所得 2 万 4,000KES 以下の人の免税措置(インフォーマルセクターの大半はここに属する)
- ・4 月 1 日から付加価値税(VAT)を 16%から 14%に
- ・法人所得税を 30%から 25%に
- ・中小零細企業の源泉徴収税を 3%から 1%に引き下げる

- ・大統領と副大統領の給与を通常の 20%にカット(つまり 8 割カット)

昨日時点で、38 人の感染者が確認されているケニア。日本リザルツが活動するカンゲミの近くのマーケットでも陽性反応の患者がいたという情報もあります。

カンゲミのような低所得者層が暮らす地域、そして、スラム街に住む人はコロナウイルスにかかった場合、病院で適切な治療を受けられる余裕がありません。また、バラックが密集しているため、更なるまん延も心配されます。

ピリピリとした週末ですが、手洗い・うがいに勤め、安全に活動をしていきたいと思えます。

2020 年 03 月 30 日

日本リザルツの理事会が開催されました

今日は日本リザルツの理事会が開催されました。

新型コロナウイルスの影響で多くの人が集まるのが難しい状況ではありましたが、理事会は滞りなく終了しました。

出席できなかった多田理事から美味しいプリンが届きました。ありがとうございました。





ガザ地区においても新型コロナが発生

新型コロナウイルス感染拡大について、更に心配なニュースが飛び込んできました。

アルジャジーラは3月26日付で「新たに7件の新型コロナ感染者が確認され、合計9件になった」と報道しています。

清田明宏・UNRWA 保健局長はこのところ非常にお忙しくされています。



人類生存の危機的事態には 地球利用代としての国際連帯税を

「途上国で数百万人が感染すればウイルスが突然変異するリスクがあり、ワクチンが開発されても効かなくなる」(2020年3月26日 国連グテーレス事務総長)



「もし1千万人以上の人々が次の数十年で亡くなるような災害があるとすれば、戦争よりも感染性の高いウイルスが原因の可能性が大きい」(2015年 ビル・ゲイツ)

●新興コロナウイルス肺炎、パンデミック

新興コロナウイルス肺炎（以下、新型ウイルスと略）の感染者と死者はうなぎ上りとなり、3月29日現在で、感染者累計で66万人、死者3万85人、感染が確認された国と地域177を数え、文字通りパンデミック状況となっています。発生地中国ではピークを超えたようですが、欧州そして米国では依然として感染が止まりません。イタリアやスペインでは医療体制が崩壊的な状態となり死者数が激増し、米国ではあっという間に感染者数が世界で最も多い地域となってしまいました（感染者：3月15日3,499人⇒3月29日12万4,686人、死者は今後10万～20万人に上る可能性も）。

一方、日本でも感染者の増加傾向は止まらず、3月28日時点で感染者1,680人、死者55人に上りました（クルーズ船等を除く）。懸念されるのは東京での感染状況であり、欧米のように都市封鎖に突き進むか否かの岐路となっています。

更に深刻なのは、国連・グテーレス事務総長が述べているように、途上国、とりわけ医療体制の脆弱な国そして7,000万人に上る難民を抱えている地域です。例え欧米日で感染のピークが過ぎたとしても、これら脆弱国・地域で感染がまん延することが懸念され、そうなればブーメランのように（再び）先進国を襲うことになるでしょう。

●人類生存の危機、気候変動問題とともに

昨年12月上旬中国・重慶で発生してから今日までのパンデミック状況を見ると、ウイルス等感染症に限られた国や地域に留まらず、文字通り地球規模で厄災として降りかかり、人類を生存の危機に落とし込めるのだ、ということを改めて気付かされました。また、感染症の拡大が都市化とグローバリゼーション等の進展によりもたらされているとするならば、今後とも私たちは感染症によるパンデミックに逢着することは避けられません。3月9日付ウォール・ストリート・ジャーナルは次のように述べています。

「ここ四半世紀に、感染症の流行は世界中でありきたりの光景になってきた。専門家によると、都市化現象やグローバリゼーション、そして社会が豊かになるにつれて動物性タンパク質の摂取が増えるといったトレンドもその背景にある。専門家はまた、人々が更に多くの感染流行に備える必要があると指摘している」（「発生頻度高まるウイルス流行、社会的変化で常態化も」）

人類を危機に陥れるグローバル・リスクには、「気候変動問題」に続き「感染症問題」もあるのだ、ということを私たちは認識しないとなりません。冒頭の2015年に行ったビル・ゲイツ氏の発言はまことに正鵠を得ていたと言えましょう。

●人類生存の危機的事態には地球利用代としての国際連帯税を

このようなグローバルな危機・脅威に対し、3月26日 G20 首脳は緊急のテレビ会議を開きました。首脳声明では、パンデミックを克服するために「必要なあらゆる手段を取る」と表明し、治療薬やワクチンの開発を促進することを確認したのですが、どうも G20 首脳の危機意識は弱いようです。首脳声明は次のような書き出しではじまります。

「過去に例を見ない新型コロナウイルスのパンデミックは、我々の国際的な連結性と脆弱性を強く思い起こさせるものである」

一言でいえば、ウイルスがいくらでも人類を生存の危機におとしこめること等への危機意識がないということです。そのこともあり、資金につき「感染症対策強化に関する拠出を大幅に増加する」と述べながら具体的な数字を挙げていません(首脳会議のもうひとつの課題の「世界経済を守る」の方には5兆ドルという数字を出していますが)。

このままでは資金拠出もいつもの国際会議での決定に見られるように、「各国の努力目標」となってしまうでしょう。感染症問題が人類課題であるとするなら、そしてグローバリゼーションの進行によって避けられないとするならば、各国の国家予算からの拠出はもとより、グローバリゼーションの上に展開しそこから利益を得ている経済主体からも、いわば地球利用税(基金)のような資金を徴収してもよいのではないのでしょうか。

実際、昨年まで日本の政治リーダーがそのことを国際社会に呼びかけていました。前外務大臣の河野太郎議員です。ここでは SDGs 達成のための資金につき語っていますが、同じ仕組みを感染症に対しても用いることができるでしょう。

「今、私が色々な会議で申し上げていることは、グローバリゼーションの光が当たっている場所から、その陰になってしまった場所に手を差し伸べる必要がある、きちんと資金を回す必要があるということです。私は国際連帯税と言っていますが、例えば莫大な為替取引に 0.0001% くらいの国際連帯税を掛けさせてもらい、その税収を国際機関に直接入れ、その国際機関が緊急の人道支援を行うという提案をしており、多くの国から賛同を得ています」(2019 年 6 月 3 日「慶應義塾大学における河野外務大臣特別講義『河野太郎、ODA を語る』」)

今日深刻な新興ウイルス問題への対処ですぐには国際連帯税の議論は進められませんが、航空、金融、デジタル等グローバリゼーションの上で活動している経済主体に対して、地球利用代としての国際連帯税について真剣に考えなければならない時期・時代に来ている

と思います。

白石さんが大学の優秀卒業研究賞を受賞！

大学在学中に日本リザルツで活躍してくれた白石陸さんが大学の優秀卒業研究賞を受賞されました！

卒業研究は「ケニアを中心とした東アフリカの地域経済統合と貿易政策」です。さすが白石さん！です。

白石さんが日本リザルツでインターンを始めたのが2016年1月の大学1年生の時からで、以後様々なお手伝いをしてくださり、重要な戦力として頑張って下さいました。

この度、めでたく大学を卒業し、4月からは新社会人となり、大活躍をすること間違いなしと思います。

先日、白石さんの卒業祝いを日本リザルツでケーキとお茶でささやかに行いました。

